

プロジェクト研究「学力アセスメントの 在り方に関する調査研究」について

令和3年6月21日
国立教育政策研究所



「学力アセスメントの在り方に関する調査研究」の骨子

<研究期間：令和3年度～令和5年度または6年度>

Society 5.0

社会的要請

CBTの国際動向への対応 GIGAスクール構想の推進「個別最適」の達成 新学習指導要領の目標実現次期改訂への備え etc.

学力アセスメントの在り方の見直し

☆基礎的な情報収集・分析（現況，先行事例，技術動向 等）

☆調査問題の作成の枠組み

☆調査結果の分析の枠組み

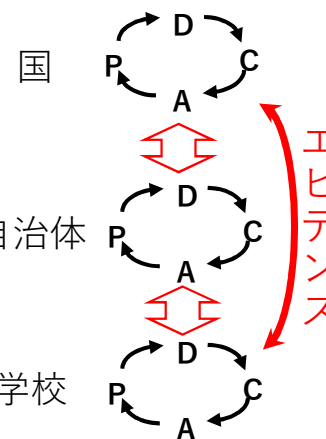
☆公的アセスメントの将来像

全国学力・学習状況調査のCBT化
[短・中期]

関連施策の総合的見直しの検討
[中・長期]

プロジェクトの
アウトプット

PDCA, EBPMの
十全な稼働



研究の
知的基盤

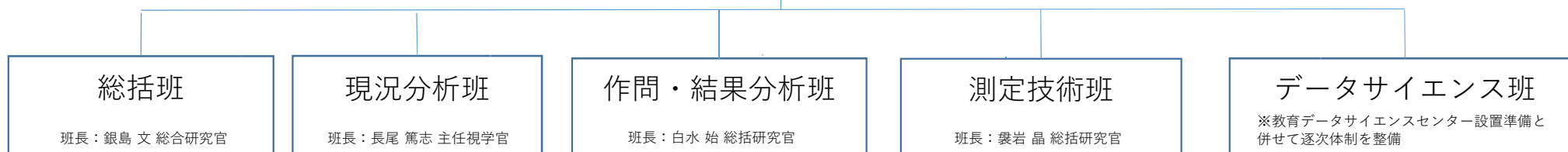
学知：学習科学，教育測定，教科教育，データサイエンス 等

経験知：学校現場での実践経験，実証データ

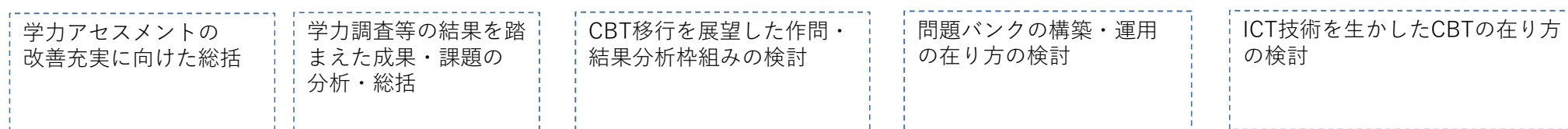
「学力アセスメントの在り方に関する調査研究」の研究体制

令和3年6月現在

研究代表者：鈴木 敏之 教育課程研究センター長
共同（副）代表者：佐藤 安紀 教育データサイエンスセンター準備室センター長



所内研究官・学力調査官、所外研究者により構成



事務局